

○弘前大学人文社会科学部 出張講義の開催について

10月2日(水)の放課後に弘前大学人文社会科学部の白石壮一郎准教授に來校していただき、3年生の4名の生徒を対象に出張講義を実施しました。最初に白石先生の研究プロジェクトに関する内容とそれに伴ったウガンダでの調査内容の一端を紹介していただきました。これらの紹介を通じて、フィールドワークとエスノグラフィの具体的な方法や必要性、大切さを生徒は知ることができたと思います。次に大学のカリキュラムやゼミ等の説明、また進学相談等をしていただきました。参加した生徒は活発に質問をするなど大変有意義な時間になったと感じています。以下のものは参加した生徒の感想文を一部抜粋したものです。是非ご一読ください。

Aさん(原文からの一部抜粋です)

白石壮一郎准教授の講座を受けて、ウガンダの現状について詳しく知ることができた。ウガンダでは初等教育の無償化政策が実施されたことで、進学する人が多くなった。またルト大統領が就任したことで、「ふつうの人から大統領に」というイメージが普及した。しかし、セカンダリ以降の学費の支払いに苦慮し、中退する者が多く、進学・卒業した者でさえ就職が困難であることが現状であり、理想と現実のギャップが大きいことがわかった。またフィールドワークの重要性も理解することができた。白石先生はウガンダでの友人であるBさんとCさんについても話されていた。例えば、Bさんは8人兄弟の7番目であり、地元の県庁の小さな町の薬局でアルバイトをしていることや、Cさんは衛生士学校を卒業した後、政府軍に9年間就職し、妻は村で初めての携帯電話充電屋となったことなど、非常に具体的でリアリティのある内容だった。この話を聞いて私は、現地に赴き、現地の住民に話を聞いたり、生活を共にしたりすることで研究テーマの本質理解につながると考え、フィールドワークは大切だと思った。

私は「青森県の若年層の流出」をテーマに探究を続けており、大学でも研究したいと考えている。私はこの目標を実現するために、ご教示してくださったことを胸に自信を持って試験に臨みます。



○令和6年度 小論文等の指導について

本校では4年制大学（国公立・私立）、短大（国公立・私立）、医療系の専門学校の総合型選抜及び指定校推薦・公募制推薦の受験を予定している生徒の中で、試験科目に小論文や面接、口頭試問等がある場合、個別に担当教員を割り当て、試験対策を行っています。（希望者のみ）

下の写真にあるように、朝の始業前や放課後といった授業以外の時間帯にほぼマンツーマンで指導しています。小論文は資料や課題文の読み取りをしたり、また要約作業をした上で自分の意見を展開していくといった能力が求められます。求められているレベルになかなか到達せずに、何度も書き直しを指示される生徒も多いですが、担当教員が粘り強く指導をし、少しずつ良い内容へと仕上がってきています。また面接は志望動機を基に、かなり深く掘り下げられた質問や想定外の質問への回答に悪戦苦闘しながら、幾度も練習を重ねて、それぞれ自信をつけてきています。

10月に入ってから専門学校や就職試験の合格発表が続々と始まっています。これから試験に臨む生徒は最後の最後まで試験対策に励んで欲しいです。体調管理にも十分気を付けて、試験本番では力を発揮して欲しいと思っています。

☆小論文指導を行っている様子



☆面接練習を行っている様子

